

植込み型デバイス委員会 セッション

2月15日(金)

第1会場 10:00~11:30

植込み型デバイス委員会 合併症対策部会セッション

リードレスペースメーカー Micraの合併症

座 長	安部 治彦	産業医科大学医学部不整脈先端治療学
	野田 崇	国立循環器病研究センター心臓血管内科
コメンテーター	新田 隆	日本医科大学附属病院心臓血管外科
	草野 研吾	国立循環器病研究センター心臓血管内科
	安藤 献児	小倉記念病院循環器内科
	佐々木 真吾	弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座

演 者

基調講演 草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

CS1. リードレスペースメーカー植込み後、右心不全を来し経静脈ペースメーカー植込み術を必要とした1例

笠川 彰 聖マリアンナ医科大学循環器内科

CS2. リードレスペースメーカーで右室穿孔を来した高齢男性の1例

福井 昭男 山形県立中央病院

CS3. 当院で経験したリードレスペースメーカーのまれな周術期合併症

宮本 翔伍 呉医療センター循環器内科

CS4. リードレスペースメーカー脱落を回収する事ができた洞不全症候群の1例

川田 好高 愛媛県立中央病院循環器内科

CS5. リードレスペースメーカーの留置、回収に伴う医原性右室裂溝の1例

山本 真吾 自治医科大学付属さいたま医療センター循環器内科

CS6. リードレスペースメーカー植込み1週間後に肺動脈への脱落が確認され回収に成功した1例

川上 徹 社会医療法人財団石心会川崎幸病院心臓病センター

CS7. リードレスペースメーカー植込みを契機にたこつぼ型心筋症を発症したと考えられる2症例

石原 優 高松赤十字病院循環器内科

ペースメーカーは、徐脈に対する治療法として確立され、広く普及している。従来のペースメーカーは、主に胸部に植込まれるペースメーカー本体と、経静脈的留置されるリードからなり、本体のポケット部分および静脈に留置したリードに起因した合併症が問題であった。そのため、リードがなく、直接心臓内に植え込む新しいタイプのペースメーカーの開発が進められ、リードレスペースメーカー (Micra[®]) として使用可能となった。国際臨床試験から得られた初期のデータに基づいて2015年4月に欧州で、2016年4月には米国で使用されるようになり、本邦でも2017年9月から保険償還され、使用症例数も3,000例を超えている。植込み時の合併症の頻度は、欧米と比較して多くはないが、重篤なものも散見される。当セッションでは、リードレスペースメーカー (Micra[®]) の本邦の臨床成績を発表頂くと同時に、具体的なトラブル症例をもとに、合併症を減らすための方法について、エキスパートとともに議論したい。